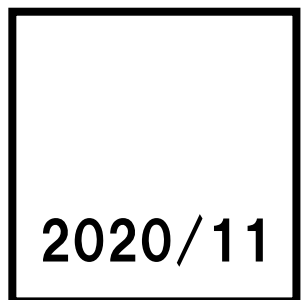




神奈川県立川崎図書館 が所蔵する
 全国有数の〈社史コレクション〉を
 さらに活用していただくため、
 社史の使い方や、社史の楽しさ、
 社史情報などをお届けしていきます。



社内報をはじめとした企業内のコミュニケーションツールを手掛けるウイズワークス株式会社は、年に一度「社内報アワード」という大会を開催しています。今年を受賞企業が決定したと知り、ふと社史の中で社内報はどのように書かれているのかが気になりました。

今年受賞した企業の一部の社史をみてみると、「社史に書かれた社内報」にはいくつかのパターンがあったので、それらをご紹介します。

①社内報の創刊・変遷を取り上げる

社内報の創刊や変遷を一つの記事として掲載している社史がありました。「紙社内報部門／1冊子20ページ以上」のブ

ンズ賞（以下同賞）を受賞した伊藤忠エネクス株式会社の『限りなき前進』（1997年刊行）には「昭和）三十八年一月に社内報『忠燃』（四月号から『チューネン』が創刊された。以後、毎月発行されて社内的情報伝達・意思疎通と和の広場になっている」とあります。誌名は社内公募で決定したそうです。

また、その後の『限りなき前進2』（2011年刊行）には、「社内報、『ちゅうねん』から『えねくす』へ」という記事がありました。新CIの制定および社名変更を機に、『ちゅうねん』の名称を2001年7・8月号より社内公募による『Nextage（ネクステージ）』に変更したそうですが、「本名称は業種を問わず、さまざまな分野

で「商号」あるいは「商標」として使用されていたため、同年9・10月号より『えねくす』に「再度名称変更したそうです。なお、受賞時の誌名は『e-STYLE』です。

同賞を受賞したトッパン・フォームズ株式会社の『TOPPANFORMS 50th』（2015年刊行）では、親交会および経営懇親会の役割を持つ「友美会」の結成について記載した記事の中で、社内報『友美』（受賞時は『tomomi（友美）』）の創刊にも触れています。「社内での会社方針の伝達、意思統一、および社員の親睦を目的として重要な役割を果たした」とあります。

②参考文献に社内報

巻末に参考文献がある社史の中には、社内報の誌名と発行期間を記載しているものがありました。同賞を受賞した三菱ガス化学株式

社内報と社史

（裏面へつづく）

(表面から続く)

会社の『三菱ガス化学三十年史』(2002年刊行)には、『瓦斯化ニュース』『るるぶ』『ヤシの実』という歴代の社内報の記載がありました。それぞれ年表にも創刊についての記載があります。年表によると『ヤシの実』に関しては2001年4月に「年4回発行とし、イントラネットに「デジタルヤシの実」がスタート」とあります。受賞時の誌名は『WAI』です。

③社内報は貴重な資料

社史を構成する記事の中に、社内報の記事をそのまま引用している社史もありました。『amazing!』で同賞を受賞した明治ホールディングス株式会社の『明治グループ100年史』(2017年刊行)は、索引をみると「社内報」の該当ページが12ページもあり、そのほとんどが該当箇所で見られているトピックについて書かれた、当時の社内報の記事を紹介するものでした。社内報に掲載された社長のメッセージを引用する箇所もありました。

『HIKYAKU』で同部門および「紙社内報部門/特集・単発企画8頁以上」のゴールド賞を受賞した佐川急便株式会社『飛脚の精神』(2007年刊行)は、社内報とのつながりが密接な社史です。「事業史」では過去の創業者の言葉やドライバーのレポート、会議での決定事項や式典の様子など、各所に社内報『飛脚』の文章が引用されています。また「資料集」の凡例には「原則として社内報『飛脚』にもとづいて作成し、必要に応じて社内資料を参考にした」と記載されています。

○2012年1月 情報紙『社楽』発行

「当館は日本有数の社史コレクションを社史室で公開しているでしょう。もっと情報発信をするため、広報紙があれば尚いいのではないかと日頃思っていたんですよ。(中略)「社史を楽しむ」という意味合いでのネーミングです。」

(「社楽」Vol.2より)



「社楽」創刊号▶

全体として、社内報は企業全体の方針を広く伝達し、社内でのコミュニケーションを円滑にする目的で創刊されてきました。社史が社内の情報を後世に残すことに重きを置いているのに対し、社内報はタイムリーな話題を扱います。企業の内部に向けた刊行物である社内報を、一つの記事として社史に取り上げる企業はあまり多くありません。しかし、当時のタイムリーな話題を扱った社内報を保管しておくことで、当時の状況や社員の生の声がわかる貴重な社史編纂の資料になるようです。

(企画情報課 堀田)

(おまけ) 当館が社史で社楽創刊を扱うとしたら...

●問合せ先 神奈川県立川崎図書館 企画情報課

213-0012 川崎市高津区坂戸 3-2-1 かながわサイエンスパーク 西棟 2F

電話：044-299-7826 FAX：044-322-8878

<https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/kawasaki/index.html>